

両立を超えて、広い価値観を受け入れる 優しい社会へ

国立成育医療センター 政策科学研究部長
森 臨太郎

私の家族は、メンタルヘルスを中心とする子育て支援専門の小児科開業をしている妻と、6歳の長女、4歳の次女、豪州→英国→日本と渡り歩いてきたラブラドル・レトリバーと、私の5人です。私たちには他人様に自慢できるような子育て経験はなく、なんとか毎日をやり過ごしている状態で、「なんとかなる（かも）」ということをお伝えすることで、「応援」になることを期待しています。

保育所入所のハードルが高い東京都杉並区の住民であることもあって、長女も次女も、結局現在まで保育所に入所することはできませんでした。私は出身が兵庫県神戸市、妻は広島県因島ということもあり、「ジジババ」の日常的物理的な手伝いは期待できません。

それでも、妻も私も、海外での小児科医経験があり、子育て中であっても仕事と家庭の両方に頑張ることが比較的やりやすい状況を見てきたこともあり、また、もともと「欲張り」なので、子育てを含めた自分たち自身の家族としてのライフスタイルと、仕事という自己実現の、両方を妥協したくない、というところがあり、この両立は家族にとっての「最重要課題」です。そういう意味でも、「子どもなんて勝手に育っちゃう」と言って、子育てを他人の手に委ねてしまうのも、自分たちのスタイルではない、とも思っています。バカ親にならず、とはいえ常に100%一緒に時間を過ごしたり、依存の関係を作るのとは違いつつ、一緒にいる時間を大事にし、親の背中からのメッセージとしても、子どもたちと真剣に向き合っていきたい、と思ってきました。

グローバルの医療が専門であることもあって、途上国のフィールドやジュネーブなど海外出張も多いのですが、一方で、幸い、私自身は現在研究職＝裁量労働制という条件で仕事をしていることもあって、ある程度柔軟に対応できることも多い職場にいます。長女の出産の時には、育児休暇を取得しましたが、次女の出産の際には、こういう労務環境でしたので、休暇を取得せずに、さまざまなことに「柔軟に」対応できました。妻は週二日の非常勤診療をしておりましたが、子育ても仕事もしっかりと実現したいということで、先日従業員なしの一人開業をしたところで、毎日頑張っているところです。

平日に娘たちが発熱をしたりすると大変です。病児保育はあまり充実しているとは言えない杉並区で、さらに、発熱している幼児を他人に預けるのもどうかな、という気持ちも手伝って、場合によってはどちらかの職場に連れて行って、ということや、妻が外来日の場合は、私の会議をキャンセルして（ご迷惑をおかけした皆様ごめんなさい）もあります。まさに、ケースバイケース・綱渡りの対応です。

子育てによって私たち自身が育てられていることを実感しています。子どもたちと真剣に向き合うことで、多くの学びを得て、成長させてもらっていることを実感し、それは仕事の面にも幅や深みとして大きく影響していることも感じます。

私の職場は研究部ですので、医師以外にもさまざまな方が働いていらっしゃいます。総勢で約50名近くの所帯になりますが、さまざまな職種と国籍の方がいて、9割は女性、その多くが子育て中、妊娠中の方は現在5人、パートタイムの方も多く、「困った時は子どもをこっそり職場に連れてきてOK」、職場の歓送迎会や部内のすべての会議は平日の昼間、といった環境にしています。こんな中、研究業績も、「だからこそ」のチーム力で頑張っ出て出しています。みんな、「子育て中だから」という理由で何かをあきらめるのではなく、仕事を楽しみつつ充実している、というように見えます。さまざまな手法を用いたチームビルディングも行っています。

個人により価値として何を重要とするかというのは異なります。広く異なった価値観（重点の置き方）を持つ個人が集まる集団としての社会を作るためには、幅広い価値観を活かすチームに転換していく組織づくりが必要な気がしています。私の立場からは、そのためには、遠いように見えて、同一価値労働同一賃金の実現と税制改革（配偶者控除）という政策的側面とともに、遮二無二競争したり、消費するのではなく、緩やかで温かい社会的価値観に包まれた社会を実現することが必須だと思っています。

＜著者略歴＞ もり りんたろう 森 臨太郎

1995年岡山大医卒。

淀川キリスト教病院などで小児科研修・診療後、2000年より豪州で新生児科の診療と周産期医療システムの構築に携わる。03年に英国に移り、ロンドン大学熱帯医学・公衆衛生学大学院で疫学修士を取得後、英国のガイドライン作成に従事。大阪府立母子保健総合医療センター、東京大学等を経て、現職。

日英両国の小児科学会専門医。日本小児科学会・小児医療提供体制委員会委員長、コクラン共同計画日本支部代表。「持続可能な医療を創る」（岩波書店）など

男女共同参画推進委員会より

日本小児科学会、小児科医バンクの紹介―「小児科医の多様な働き方を支援する」

日本小児科学会では、インターネットホームページを利用した小児科医向け求人情報システム「小児科医バンク」(<http://qolpro.umin.jp/>)を2006年から運用しています。当初はパイロットプロジェクトとして大阪地区に限定して運用を開始し、2007年7月から本格的に日本全国を対象に運用して10年目を迎えます。運営は当初は小児科医QOL改善プロジェクト委員会、現在は男女共同参画推進委員会が担当しています。小児科医のQOLの改善、男女共同参画の推進という趣旨のもと、小児科医の多様な働き方を支援するため、育児中や介護中などの医師も求職しやすいよう、きめ細かい労働条件を紹介している点が特徴です。また、小規模病院や診療所、開業医院などからも気軽に求人を出すことができるよう、無料でオープンな運営を行っています。「子育て中だから」、「介護中だから」とあきらめるのではなく小児科医としての仕事を通して充実感や生きがいを感じて欲しいと思います。是非、一度「小児科医バンク」をご覧になってご利用いただければ幸いです。

※「小児科医バンク」は2019年12月をもってサイトを閉鎖いたしました。